

# 新 60 年,70 年,そして 100 年を目指して

～ 中央支部 賀詞交歓会 開催 ～

(一社)全国さく井協会中央支部は令和6年1月18日、東京都中央区の鉄鋼会館において、出席者63名で『令和6年 新年賀詞交歓会』を開いた。

冒頭、能登半島地震の犠牲者に対して全員で黙とうを捧げた。

開会にあたり、若林直樹支部長は「能登半島地震でも水の確保が問題になっている。災害時に国民の命と暮らしを守る防災井戸の普及に全国で取り組んでいきたい。また、今年はさく井協会創立50周年にあたる。単なる記念イベントではなく、次の60年、70年そして100年に繋がる糧となる行事を考えていきたい。また、業を続けるために一番の課題である担い手、人材確保に努めていかなければならない。地熱、地中熱といった再生可能国産エネルギー分野を含め、新たな協会の姿を描いていければ」と新年の抱負を述べた。



挨拶する若林直樹支部長

来賓として出席された国土交通省水管理・国土保全局の森本輝河川計画課長は能登半島地震を踏まえ「災害時における長い管路の脆弱性や復旧の難しさを指摘しつつ、地域自力型の防災井戸の有用性」に言及した。

続いて歓談に入り、最後に森川俊英副支部長の1本締めでお開きとした。



久しぶりの乾杯

年明け後ご多忙中、ご参加の皆様、長時間ありがとうございました。